

図書館員が選んだおすすめ本100冊

ヨコガタ

Yokote City Librarians One Hundred Recommended Books 2018





たくさんの中からどんな本を読んだらいいか迷ってしまう、
そんな人に、本を選ぶきっかけとなるブックリストを作成しました。
横手市立図書館で働く図書館員 21 人がそれぞれに選んだ一冊です。

これ面白いから読んでみて！私が選んだ本の話をしてしましよう！
そんな想いを持って図書館でお待ちしています。

あなたの一冊に出会ってほしい。
みなさまに本との新たな出会いが訪れますように。

横手市立図書館

※本の紹介文はニックネームで掲載しています。

※掲載の 100 冊はすべて市内の図書館で借りることができます。
お近くの図書館にないときは予約してください。お取り寄せいたします。

『海に降る』

朱野 帰子/著 幻冬舎 2012

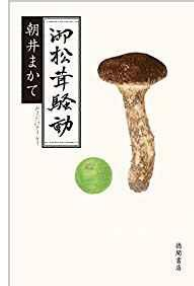


913.6 ア

閉所恐怖症を発症した潜水調査船パイロット候補の深雪。謎の生物「白い糸」を追う高峰。各々「しんかい 6500」への乗船を熱望するも、無人探査機への予算集約が本格化する。未知を求める人間の情熱は深海へ届くのか。(ふっくん)

『御松茸騒動』

朝井 まかて/著 徳間書店 2014



913.6 ア

松茸とれなきヤクビ！？尾張藩は松茸の産地。頭の切れる神原小四郎はその松茸を司る同心に抜擢（あるいは左遷）され、2000本を集めることになりますが、これがとてつもない難事業、はたしてうまくいきますやら。(㊤)

『武道館』

朝井 リョウ/著 文藝春秋 2015



913.6 ア

武道館ライブを目指すアイドルグループのメンバー、日高愛子。恋愛禁止、SNS炎上、メンバーへの中傷…グループの成長と共に、自身が選んだアイドルの道に迷いが生じ始める。最後に愛子が選ぶ答えとは？(おこめ)

『神坐す山の物語』

浅田 次郎/著 双葉社 2014



913.6 ア

ちよびり怖くて切ない連作短編集。奥多摩・御嶽山の神社を代々守る神官の一族。普段は街に暮らしながらも、その血を濃く引く主人公。神や死者の存在を身近に感じる彼らと、目に見えざるものたちとの遭遇を描く物語。(I.K)

『悪いものが、来ませんように』

芦沢 央/著 KADOKAWA 2013



913.6 ア

大切な人のため…コミュニティの中での居心地の悪さを埋める様に寄り添いあって生きる紗英と奈津子。物語は二人の視点からと、関係者の証言で構成されている。事件の真相と背景にある問題が、徐々に明かされてゆく。(A2)

『希望が死んだ夜に』

天祢 涼/著 文藝春秋 2017

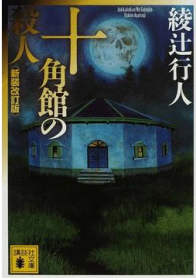


913.6 ア

中学生の少女が同級生を殺害した容疑で逮捕された。その動機をめぐり、二人の刑事が捜査を開始するが、果たして真相は…。少女らの友情を描きながら、貧困という社会問題に鋭く切り込んだ青春ミステリー。(おはし)

『十角館の殺人』

綾辻 行人/著 講談社 1991



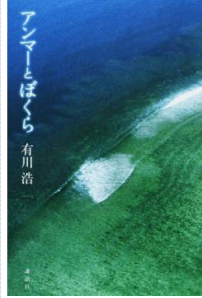
913.6ア (文庫)

読者 vs 作者！

綾辻行人さんのデビュー作にして、現在も続く「館シリーズ」の記念すべきはじめの1冊。卓越した叙述トリックの名作と言われ、1987年に刊行されてから30年間、多くの読者に衝撃を与え続けています。(T.T)

『アンマーとぼくら』

有川 浩/著 講談社 2016



913.6ア

「今からでも遅くない。」長年気がかりだった親孝行のためヨウは亡き父との思い出の地、沖縄を二番目の「おかあさん」と観光する。沖縄の美しい景色の中で起こる神秘的な出来事とは…。家族の愛と絆を描く名作。(A3)

『レインツリーの国』

有川 浩/著 新潮社 2006



913.6ア

一通のメールから始まった恋。ブログで交流を深めた、伸行とひとみだったが、耳に障がいのあるひとみは、次第に伸行を遠ざけ始めます。会えない理由があるというひとみに、伸行がかけた言葉とは…。(ずみやん)

『生存者ゼロ』

安生 正/著 宝島社 2013



913.6ア

北海道を襲った未知の感染症に立ち向かう陸上自衛官の廻田と感染症学者の富樫。2人は次々と訪れるパンデミックによる大量死を防ぎ、人間を守ることができるのか。そして感染症の原因・正体とはいったい？(T)

『ラッシュライフ』

伊坂 幸太郎/著 新潮社 2006



913.6イ

交錯する人生、運命の分かれ道。訳ありの人々が、すれ違ったり鉢合わせしたり…。それぞれの起こした事件が奇妙に絡まり、ややこしくなっていく。これでもか、という位伏線だらけのパズルの様なストーリー展開。(A2)

『ホワイトラビット』

伊坂 幸太郎/著 新潮社 2017

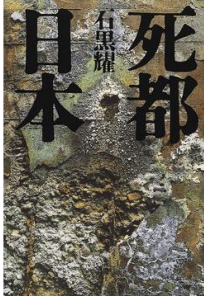


913.6イ

誘拐業者兎田が逆に愛妻綿子ちゃんを誘拐され、人質たてこもり事件へと発展した奇想天外な籠城ミステリー。時間に追われ必死で救出を謀る兎田。裏切り者のオリオと引換に綿子ちゃんを無事救出できるのか…？(A3)

『死都日本』

石黒 耀/著 講談社 2002

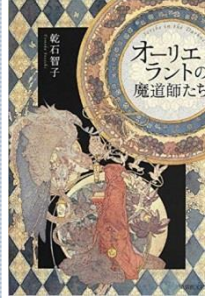


913.6 イ

豪雨、台風、地震の次は…!?破局的噴火という未曾有の大災害が起き破滅に向かう日本。綿密な取材はリアルな説得力があり、手に汗握るパニック小説。国のトップには、大事な時に正しい判断ができる人物をと思考させる。(Rin)

『オーリエラントの魔導師たち』

乾石 智子/著 東京創元社 2013

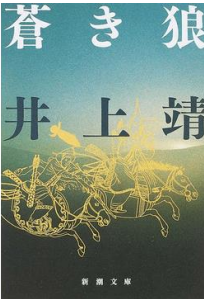


913.6 イ

重厚で良質なファンタジーの世界へ。魔導師と呼ばれる者たちが生きる世界、オーリエラント。紐を結ぶ魔法、日用品を使う魔法、死体を使う魔法…様々な時代に様々な種類の魔術を使う、魔導師の物語が描かれる短編集。(su-san)

『蒼き狼』

井上 靖/著 文藝春秋 1960



913.6 イ

モンゴルの英雄。チンギスハンを描いた歴史物語。発表当時、大岡昇平が史実をないがしろにしていると批判したのはつとに有名だが、詩情のゆたかな娯楽作品です。他のチンギスハン物と比べて読むのも一興です。(㊦)

『なでし子物語』

伊吹 有喜/著 ポプラ社 2012



913.6 イ

祖父のもとで生活することになった小学四年生の耀子と、愛人の子どもとして生まれた立海。居場所のなかった二人がともに成長していく物語。二人を見守る大人たちの言動も美しく、幸せな読後感に包まれる。続編もあり。(菅さん)

『鬼』

今邑 彩/著 集英社 2008



913.6 イ

背筋がヒヤッとする8編。派手なホラーや幽霊話ではないけれど、ひっそりとした恐怖の余韻が味わえます。後味の悪さ、嫌な予感、もしかして、まさか…?不穏な空気が漂い、ザワザワした気持ちになります。(A2)

『間宮兄弟』

江國 香織/著 小学館 2004



913.6 イ

30代モテない兄弟の楽しくて、ちょっと切ない日常。都内のマンションに二人暮らしの兄弟は、インドアだが多趣味で、モテないながらも人生を楽しんでいる。しかし、彼らの平和な日常にちょっとした変化が…!?

(わいわい)

『平台がおまぢかね』

大崎 梢/著 東京創元社 2008



913.6 オ

出版社新人営業マンは名探偵！他社の先輩営業部にいじられながら、新人の井辻くんは毎日書店回りに大忙し。なぜか次々に仕事先で起こる謎の出来事。元書店員の著者が描く出版業界が舞台のほのぼのミステリー。(モフモフ)

『櫻子さんの足下には死体が埋まっている』 太田 紫織/著 角川文庫 2013



913.6 オ (文庫)

旭川市の高校生館脇正太郎は、地域では有名な良家のお嬢様で「骨」を愛する標本土の九条櫻子と交流を持つことに。その先々で事件に遭遇し櫻子の推理で事件を解決するが、やがて不可解な殺人事件に巻き込まれていく。(ノラネコ)

『木島日記』

大塚 英志/著 角川文庫 2017

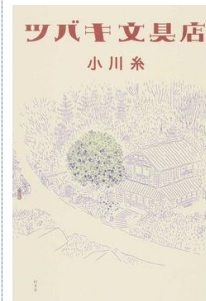


913.6 オ (文庫)

偽史エンタメ小説の決定版！この世にあってはならないものを仕分けする、「仕分け屋」木島平八郎。彼の古書店で未刊の自作本を見つけた、民俗学者・折口信夫が木島と共に、開戦前の危うい日本で、妖しく蠢く物語を紡ぐ。(su-san)

『ツバキ文具店』

小川 糸/著 幻冬舎 2016



913.6 オ

舞台は鎌倉。先代からの文具店を引継ぎ代筆業を営む20代の鳩子。依頼者の気持ちに寄り添い代筆する主人公の姿が印象的。鎌倉の風景や食べ物の描写、出合いに関わる人とのやりとりに心温まる物語。(Y.K)

『営繕かるかや怪異譚』

小野 不由美/著 KADOKAWA 2014



913.6 オ

家の中に潜む怪異を祓うのではなく、受け入れ繕う。その繕う仕事を請け負っているのが営繕かるかやの尾端さん。この世に想いが残ったままさまよう物の怪との折り合いつかたは、見事でも悲しい。6編の短編集。(菅さん)

『夜のピクニック』

恩田 陸/著 新潮社 2004

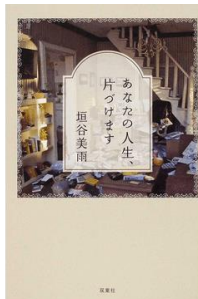


913.6 オ

朝8時から翌朝8時までひたすら歩く全校生徒参加の行事「歩行祭」。これが高校生活最後のイベントとなる3年生たちは、歩行祭の中でそれぞれの思いを抱えながら成長していく。かけがえのない青春の1ページの物語。(T)

『あなたの人生、片づけます』

垣谷 美雨/著 双葉舎 2013



片づけ屋の主人公が片付けられない4人の依頼を受け、訪問する。「家」だけでなく、その住人の生き方に原因を探りながら心の整理も手助けしていく。それぞれの家と片付けられない心の整理が描かれた短編集。(Y.K)

913.6カ

『この本が、世界に存在することに』

角田 光代/著 メディアファクトリー 2005

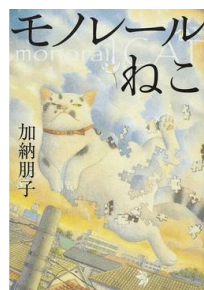


本をこよなく愛する作家の贈る、本と人との出会いと別れの短編集。おばあちゃんに頼まれた探し物は一冊の本だった。「さがしもの」より。本との関係性を綴る「不幸の種」、他7編のますます本が好きになる一冊。(A3)

913.6カ

『モノレールねこ』

加納 朋子/著 文藝春秋 2006



ガラス越し、だけど家族。とある家族のもとにやってきたザリガニ。名前は「バルタン」。彼は水槽の中から、この家族に巻き起こる日常と非日常を、独自の目線で見つめる。《バルタン最後の日》ほか7作品。(砂糖さん)

913.6カ

『147ヘルツの警鐘』

川瀬 七緒/著 講談社 2012



遺体に付いた虫の声を聞け！名コンビここに誕生。風変わりな女性法医昆虫学者、赤堀と、叩上げの警部補、岩楯。真逆の2人がタックを組んで、難攻不落な刑事事件を驚きの切り口から解決へ導く、新感覚ミステリー。

(su-san)

913.6カ

『がいなもん 松浦武四郎一代』

河治 和香/著 小学館 2018



飄々としながらも情に厚い男。北海道の名付け親として知られる彼は、旅をし記録に残す事を生涯続けた。その途方もない行動力と広い人脈のエピソードの数々、幕末の動乱・明治の風俗・アイヌ文化満載の作品。

(A2)

913.6カ

『鍵のかかった部屋』

貴志 祐介/著 角川文庫 2012



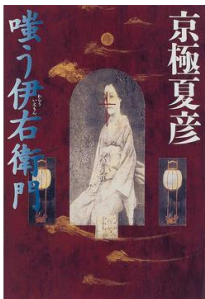
防犯コンサルタント、榎本と美人弁護士、青砥のコンビが難解な密室殺人事件に挑む。時折暴走する青砥の推理とそれをバツサリ否定する榎本のコミカルなやり取りで軽やかに物語は進むが、密室トリックは秀逸。

(おこめ)

913.6キ

『嗚う伊右衛門』

京極 夏彦/著 中央公論社 1997



913.6 ㇰ

生まれ変わった四谷怪談。極悪非道の伊東の悪行が周囲を翻弄し不幸の連鎖が始まる。互いを想う気持ちがあるのに分かりあえない岩と伊右衛門。岩の願いは打ち砕かれ、人々もやがて破滅へと向かう。切なく苦しい物語。(A 2)

『猫の傀儡』

西條 奈加/著 光文社 2017



913.6 サ

気付けられないように人を動かし、猫のために働かせる・それが猫の傀儡師である。行方知れずの先代に代わり、傀儡師となった野良猫のミスジ。傀儡に選ばれた人間・阿次郎とともに、一匹とひとり江戸の町に繰り出す。(おはし)

『千年鬼』

西條 奈加/著 徳間書店 2012

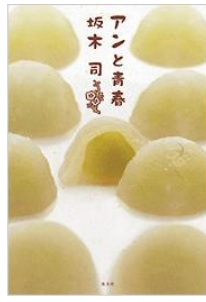


913.6 サ

あきらめない、あの人に会うためなら。「鬼の芽」を持つ者に、鬼は見える。心の弱さや闇を感じると、鬼の芽は弾け、やがて「人」は「鬼」に変わってしまう。そうなる前に、人と鬼は、想いを繋ぐことはできるのか。(砂糖さん)

『和菓子のアン』

坂木 司/著 光文社 2010



913.6 サ

和菓子のお供にミステリー。デパ地下の和菓子屋のバイト・アンちゃんは個性的な同僚に囲まれて、時には悩みながら日々奮闘中。和菓子とミステリー意外な組み合わせが絶妙。読んだら無性に和菓子が食べたくるのでご注意。(モフモフ)

『そこはかさん』

沙木 とも子/著 KADOKAWA 2014



913.6 サ

“家霊”をめぐる美代ちゃんの旅。京都生まれの女子大生・美代ちゃんの周りでは、なんだか不思議なことが起こるのです。代々続く女系一家の秘密と、女性にだけその姿を見せるといふ「そこはかさん」の正体とは…？ (I.K)

『はかぼんさん 空蟬風土記』

さだ まさし/著 新潮社 2012



913.6 サ

これは創作か、実話か…京都の旧家に伝わる謎の儀式、信州の「鬼のお宿」、人魚の肉を食べたと噂される津軽美人…。日本全国に残る風習や伝説をもとにした背筋がゾクツとするような6話をあつめた奇譚集。(I.K)

『しゃべれども しゃべれども』

佐藤 多佳子/著 新潮社 1997



913.6 サ

色褪せない面白さ。若手噺家の今昔亭三つ葉は、「話すこと」に悩みを抱える男女4人に落語を教えることになる。不器用でまっすぐな登場人物たちが、少しずつだが一歩を踏み出す姿に心が温くなる。(おはし)

『市立ノアの方舟』

佐藤 青南/著 祥伝社 2016



913.6 サ

市役所職員の磯貝健吾が人事異動で赴任したのは、廃園が噂される市立動物園の園長だった。“素人園長”である磯貝と、個性ある動物園職員や動物たちとの悪戦苦闘の日々を爽やかなタッチで描くお仕事小説。(T)

『異邦の騎士』(改訂完全版)

島田 莊司/著 講談社 1998



913.6 シ (文庫)

主人公は記憶喪失の青年。互いに一目ぼれした良子と暮らし、ひと癖ある占い師の御手洗潔という友人もできた。しかしある時、自らの筆跡の「殺人者の手記」を見つける。筆者の代表シリーズの前日譚となる作品。(ふっくん)

『不死症 (アンデッド)』

周木 律/著 実業之日本社 2016



913.6 シ (文庫)

ある県の山中、平成製薬の研究所で爆発事故が発生。泉夏樹は瓦礫の中で目を覚ましたが記憶喪失に。爆発での生き残りは数名、周りは食人鬼と化したかつての同僚で溢れかえていた。一体どこで何が行われていたのか。(ノラネコ)

『東京バンドワゴン』

小路 幸也/著 集英社 2006



913.6 シ

明治から続く下町の老舗古本屋(東京バンドワゴン)を営む堀田家は四世代8人家族。隣にカフェを併設したこの古本屋には、春夏秋冬、古書にまつわる様々な謎が舞い込んでくる。温かく賑やかな堀田家の一年間の物語。(おはし)

『小説の書きかた』

須藤 靖貴/著 講談社 2015

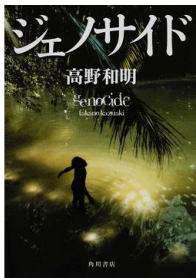


913.6 ス

海風薫る文芸部小説。サッカー部を辞めて、文芸部に入部した鳴井紀美子。学園祭の出しもので、リレー小説を書き上げて新人賞に応募することに…？小説の技法がわかるだけでなく、真剣な高校生の姿がまぶしい一冊！(おはし)

『ジェノサイド』

高野 和明/著 KADOKAWA 2011



913.6タ

大量殺戮は繰り返されるのか。民間軍事会社の傭兵イーガーは、破格の報酬の極秘任務を任される。大学院生の剣人は、亡くなった父から指令のメールが届く。南アフリカと日本、二人に待ち受ける驚愕の事実とは？（わいわい）

『姥ときめき』

田辺 聖子/著 新潮社 1984



913.6タ

歌子さんは人生のキャリアウーマン。70代の女性が主人公という小説は最近ちらほら増えてきましたが、昭和女の歌子さん。仕事も家庭もきっちりこなした上で、高齢化社会を歩く姿はカッコいいのです。(㊥)

『がらくた屋と月の夜話』

谷 瑞恵/著 幻冬舎 2015



913.6タ

時を越えて、過去の思い出がよみがえる。月子が辿り着いたのは、物語を売るがらくた屋でした。古い時刻表、ドッグタグ、そしてウサギのぬいぐるみ。河嶋骨董店には、今日もまた人生の探し物を見つけに人が集まります。(ずみやん)

『崩れる脳を抱きしめて』

知念 実希人/著 実業之日本社 2017

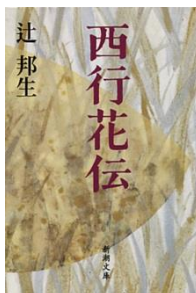


913.6チ

神奈川の病院へ実習に来た研修医の碓氷は、脳腫瘍を患う女性ユカリこと弓狩環に出会う。心通わすうちに魅かれていくが、実習を終えた時彼女の死を知る。納得できないまま彼女の痕跡を追う碓氷に明かされる真実とは。(ノラネコ)

『西行花伝』

辻 邦夫/著 新潮社 1995



913.6ツ

美と行動の歌人。きらびやかな辻文学の集大成。西行法師の秘めたる恋と激動の平安末期が織りなす華麗なる絵巻。あまりに華やかで気持ちがずさんである時には読まない方がよしいかと。(㊥)

『ツナグ』

辻村 深月/著 新潮社 2010



913.6ツ

今はもういないあのの人に、もう一度だけ会えたなら。死者との再会を叶えてくれる使者、ツナグ。彼の元には、大切な人を失った人々が絶えず訪れます。そして、ツナグは死者と生者の運命を、再び繋ぎあわせるのです。(ずみやん)

『かがみの孤城』

辻村 深月/著 ポプラ社 2017



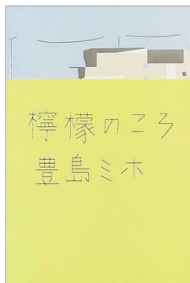
913.6 ヅ

孤独を抱えるあなたへ贈るファンタジー。

ある日突然、部屋の鏡が光り出し、ここは思いも寄らない世界へ入り込むことになる。この城は何なのか？“願いの鍵”は見付けられるのかー？居場所をなくした少年少女の物語。(S)

『檸檬のころ』

豊島 ミホ/著 幻冬舎 2005



913.6 ト

青春って、甘酸っぱい。受験、恋、友情…。田舎の県立高校を舞台に多彩な登場人物それぞれの葛藤が描かれる、切なくてあたたかいお話 7編。大事件なんて起こらなくても、地味には地味なりの青春があるので。(I.K)

『あん』

ドリアン 助川/著 ポプラ社 2013



913.6 ド

2015 年公開映画原作。代わり映えのしない日々を過ごすドラ焼き屋の雇われ店長・千太郎。ある日、手の不自由な老女・徳江が現れたことから日常が変わっていく。じんわり心に響く物語。(S)

『漢方小説』

中島 たい子/著 集英社 2005



913.6 ナ

31 歳女みのり、救急搬送される場面で始まる。昔結婚を申し込まれた男に結婚の報告を聞かされたショックだなんて思いたくない！何件も回った病院では原因不明、たどりついた先は漢方医。みのりの体と心の変化に注目。(菅さん)

『離婚男子』

中場利一/著 光文社 2013



913.6 ナ

母ちゃん探して東奔西走！仕事から帰ると、妻がいなくなっていた。残されていたのは、わずかな生活用品と幼い娘だけ。なぜ家具まで持ち去る必要があったのか？父子二人、仕事も母ちゃんも探す旅のはじまりはじまり。(砂糖さん)

『漁港の肉子ちゃん』

西 加奈子/著 幻冬舎 2011



913.6 ニ

明るく素直で奔放な肉子ちゃん。本当の名前は菊子だけど太っているから肉子ちゃん。娘のキクリんという言葉で語られる物語は、肉子ちゃんの強烈なキャラが、何気ない日常と混じりあって愉快。家族を考えるラストに少し涙。(菅さん)

『凍える牙』(新装版)

乃南 アサ/著 新潮社 2007



913.6ノ

直木賞受賞の音道貴子シリーズ第一弾。孤独と戦う女刑事音道と、昔気質の中年刑事滝沢。お互いに反感を抱きながらも、相棒として二つの異常な事件を追うが…。人物の背景や心理描写が魅力で、結末は切なく心に響く。(Rin)

『感情8号線』

畑野 智美/著 祥伝社 2015



913.6ハ

環状8号線沿いに住む6人の女性の連作短編集。好きな人がいる、彼氏がいる、結婚している。幸せがすぐそばにありそうなのになぜかたどり着くことができない。女性が隠し持つ心のざらつきをリアルに描く恋愛小説。(おこめ)

『ロスト・ケア』

葉真中 顕/著 光文社 2013



913.6ハ

重度の要介護者ばかりが連続して殺された事件。その背景にあるのは、“介護”をとりまく、あらゆる絶望だった。善と悪、罪と罰とは何なのか。ミステリーの要素にリアルな介護の現場の様子を織り交ぜ描く社会派小説。(T)

『散り椿』

葉室 麟/著 KADOKAWA 2014



913.6ハ

かつて役人の不正を訴え、藩を追われた剣の達人・瓜生新兵衛は、苦勞の末に亡くなった妻の願いを叶えるため帰藩する。しかし、藩には不穏な動きがあって一。過去と現在が繋がる時、椿に隠された想いが胸を打つ。(S)

『六条御息所源氏がたり 1～3』

林 真理子/著 小学館 2010～2012



913.6ハ

恋愛小説の名手林真理子版の源氏物語。源氏の恋人の一人として登場する六条御息所を語り部に新たな源氏物語の世界を楽しめる。なぜ源氏に惹かれてしまうのか？女達の心情が現代の私達にも手に取るように伝わる。(ゆこリン)

『本日は、お日柄もよく』

原田 マハ/著 徳間書店 2013



913.6ハ

製菓会社勤めのOLこと葉は、ひよんなことから伝説のスピーチライターに弟子入りすることに。スピーチライターとして言葉の可能性を感じていくこと葉。登場するスピーチに思わず胸が熱くなる、熱血お仕事小説!! (ゆこリン)

『幸福な生活』

百田 尚樹/著 祥伝社 2011



913.6七

全 19 話のショートショート。介護施設での母との会話、突然家にやってきた不倫相手…1 話 1 話は短いが油断してはいけない。最後のページをめくった先にとんでもないオチが待っている。その向こうは幸福かそれとも？
(おこめ)

『宇宙へ』

福田 和代/著 講談社 2012

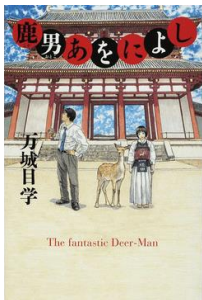


913.6フ

宇宙と地球をつなぐエレベーターが実用化された 2030 年代。36000 km 上空で働くメンテナンスマンは日々機器の保守点検に努め、追突してくる隕石を除去し、時にはテロリストに立ち向かう。そう遠くない未来のお仕事小説。(ふつくん)

『鹿男あをによし』

万城目 学/著 幻冬舎 2007



913.6マ

奈良の女子高の教師になった「おれ」は奈良公園の鹿に突然話しかけられ、「目の運び番」を命じられる。よくわからないまま鹿の言うことに巻き込まれ、奮闘するファンタジー小説。テレビドラマ化、漫画化された。(Y.K)

『プリンセス・トヨトミ』

万城目 学/著 文藝春秋 2009



913.6マ

400 年に渡り守られてきた大阪の秘密が今明かされる。大阪へあることを調査しにやってきた会計検査院の調査官の前に立ちはだかるのは大阪の男達が守り続けるある秘密だった。プリンセス・トヨトミの意味とは？
(ゆこりん)

『ジェームズ・ボンドは来ない』

松岡 圭祐/著 KADOKAWA 2014



913.6マ

Dear, Bond.
瀬戸内海に浮かぶ島を舞台に繰り広げられる、実話をもとにした青春小説。007 小説に島が登場することを機にロケ誘致活動に励む島民たち。はたして、本当にジェームズ・ボンドはやってくるのか。(T.T)

『となり町戦争』

三崎 亜記/著 集英社 2005



913.6ミ

となり町との戦争のお知らせが広報に載っていた。増えていく戦死者、お役所仕事で進む戦争、任命された探偵業務。戦争の果てに主人公が見たものは？リアリティが伴わないまま進むシュールさは現実でも同じかもしれない。(菅さん)

『山女日記』

湊 かなえ/著 幻冬舎 2014



913.6ミ

悩める 7 人が、それぞれの思いを抱きながら山の頂をめざす連作長編。山登りを通して人生に向き合う姿が描かれている。一步一步踏みしめ、たどり着いたときに見えてきた風景とは。登場する七つの山にも注目。(こたら)

『ガラシャ』

宮木 あや子/著 新潮社 2010



913.6ミ

明智光秀の娘・玉子（細川ガラシャ）の生涯の物語。後戻りができない戦国という時代に、女としての人生をガラシャはどう生きたのか。時代の波に翻弄されながら、ガラシャと周囲の人々の恋模様が繰り広げられる。(T)

『天翔る』

村山 由佳/著 講談社 2013



913.6ム

いじめ、父の死…苦難の中にいた少女が出会ったのは、乗馬耐久競技「エンデュランス」。速さや技術を競うだけではなく、馬が健康な状態で 100 マイルを完走することが勝利となる特殊なレースに関わる人々の成長を描く。(ふつくん)

『パンとスープとネコ日和』

群 ようこ/著 角川春樹事務所 2012

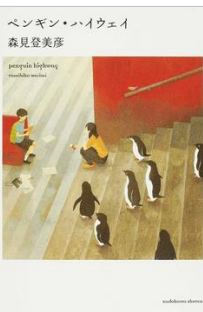


913.6ム

出版社を退職して、母の営んできた食堂を改装しパンとスープのお店をはじめた 53 歳のアキコ。迷いながらも自分もおもいをこめた場所をつくりあげていくアキコの生き方が心に残る。ささやかな幸せを丁寧に描いた作品。(こたら)

『ペンギン・ハイウェイ』

森見 登美彦/著 KADOKAWA 2010



913.6モ

ぼくは、どのようにしてペンギン・ハイウェイを走ったか。アオヤマ君は知りたい。なぜ街にペンギンが現れるようになったか。そして、お姉さんの謎。アオヤマ君が未知の研究に挑んだひと夏の思い出。(T.T)

『有頂天家族』

森美 登美彦/著 幻冬舎 2007



913.6モ

面白きことは良きことなり。京都・糺ノ森に暮らす狸の一家、下鴨家。その三男・矢三郎は、奇想天外なことを思いつく天才だが、周囲を困らせてばかりいた。そんな折、宿敵の夷川の罠にはまり、絶体絶命の大ピンチに！（ずみやん）

『BUTTER』

柚木 麻子/著 新潮社 2017



913.6コ

週刊誌記者の里佳は、結婚詐欺殺人の容疑者の女の取材をすることになる。およそ容疑者とは思えない自信に満ち溢れた態度と魅惑的な食の話に里佳は彼女にどんどんのめり込んでいく。その闇はバターのように濃厚。(おこめ)

『盤上の向日葵』

柚月 裕子/著 中央公論社 2017

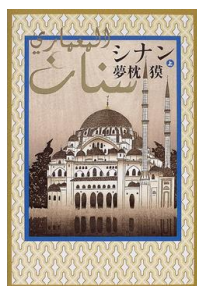


913.6コ

平成の松本清張・柚月裕子の渾身の作。日本中から注目を浴びる異端の棋士・上条、その悲惨な過去の物語が山中で発見された白骨死体事件に繋がっているのか？将棋ミステリーだがルールが分からなくても十分堪能できる。(モフモフ)

『シナン』

夢枕 獏/著 中央公論新社 2004



913.6コ

石に祈り満ち、宙に神宿る。オスマントルコ帝国の最盛期、スレイマン大帝の治下に壮麗な建築群を造り続けた天才シナン。一介の工兵から帝国最高の建築家に登りつめた生涯が壮大なスケールで描かれます。(㊤)

『のぼうの城』

和田 竜/著 小学館 2007



913.6ワ

2万対500絶対不利な戦いに挑む！周囲を湖に囲まれ浮き城の異名を持つ忍城に豊臣軍が攻めてきた！絶体絶命のピンチに城を任されたのは、でくのぼう・「のぼう様」と呼ばれる成田長親。さて、この男の奇策とは？(ゆこりん)

『女盛りは心配盛り』

内館 牧子/著 幻冬舎 2018



914.6ウ (文庫)

2010年から2011年までの雑誌連載をまとめた1冊。ちょっとした時に感じる社会への憤りを、はっきりとした言葉にしてユーモアで包む文章が爽快な読後感を与える。平鹿町の忠猫碑に光を当てた「サバオと白い猫」も収録。(ふっくん)

ここからはエッセイやノンフィクションのジャンルから選んだおすすめ本です



『卵を買いに』

小川 糸/著 幻冬舎 2018



914.6 オ (文庫)

取材で訪れたラトビアでの出来事や生活などを綴ったエッセイ。旅先でも料理を作り、日々の暮らしを実践する著者。ラトビアが好きな気持ち、そして愛犬ゆりねちゃんへの愛がたくさん詰まっている。さくと読めます。(こたら)

『考えるマナー』

中央公論新社 2014



914.6 カ

マナー[manner(s)]行儀。作法。(『広辞苑第7版』)12個の光る個性が、正解のわからない日常のピンチから面白おかしく、時に真面目に救いいたします。ありとあらゆるマナーについて考察し、回答を示したエッセイ集です。(T.T)

『今日も一日きみを見てた』

角田 光代/著 KADOKAWA 2015



914.6 カ

猫とはなんと可愛いものなのか…。人生初の愛猫トトの行動に戸惑いながらも次第にその虜となっていく。小説の世界からは想像もつかない猫バカぶりを綴ったフォトエッセイ。笑いあり涙あり、可愛い写真に癒されます。(モフモフ)

『なんでわざわざ中年体育』

角田 光代/著 文藝春秋 2016



914.6 カ

運動嫌いの筆者が次々と運動に挑戦していく。登山、ボルダリング、マラソンなど。「辛い嫌い」と言いながらもフルマラソンを何回も完走し、自分でもできる快感を発見する体験エッセイ集。中年体育心得8カ条は的確。(Y.K)

『ヨーコさんの“言葉” ふっふっふ』

佐野 洋子/著 講談社 2018

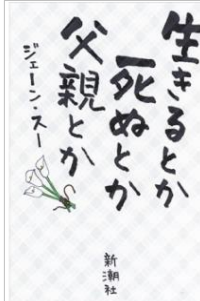


914.6 サ

NHK Eテレで放送された人気番組を書籍化したもの第4弾。何事も飾らず率直にメッセージを送ってくれます。北村裕花さんのイラストともうまくマッチし、ありのままが良いとさり気なく生き方や愛を語る応援歌。(A3)

『生きるとか死ぬとか父親とか』

ジェーン・スー/著 新潮社 2018



914.6 ジ

20年前に母を亡くした著者が、破天荒な父80歳と行かず後家になりそうな40代半ばの自分を前にして難しい親子再生を進めるエッセイ。「母」という家族を繋ぐ役割がいなくなると家族の絆は心許ないと考えさせられる。(ノラネコ)

『星空の谷川俊太郎質問箱』

谷川 俊太郎/著 ほぼ日 2018

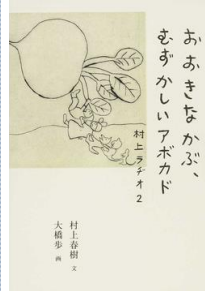


914.6 夕

表紙やイラストも素敵な、宝箱のような一冊。おっぴいから宇宙の話まで、WEBサイトで公募した一般の方からの64の質問に、詩人の谷川さんが真摯に回答。口語での語り口は、みずみずしい感性に溢れていて楽しい。(Rin)

『おおきなかぶ、むずかしいアボカド』

村上春樹/著 マガジンハウス 2011



914.6 ㈬

シーザーズ・サラダ、カクテル、ビートルズ…。雑誌「アンアン」に連載されていた「村上ラチオ」をまとめた一冊。大橋歩の美しい銅版画とともに掲載。食べ物やお酒の話など、肩の力を抜いて気軽に楽しめるエッセイ。(わいわい)

『父の戒名をつけてみました』

朝山 実/著 中央公論新社 2013

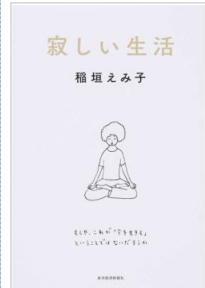


916 ア

父の戒名を自分でつけようとしたら、檀家のお坊さんに恫喝された! ? という所から始まる葬儀や相続のゴタゴタなど著者の実体験を綴ったルポ。体験談として楽しめるし、意外と知らない慣習や意味を知ることできる。(ことら)

『寂しい生活』

稲垣 えみ子/著 東洋経済新報社 2017

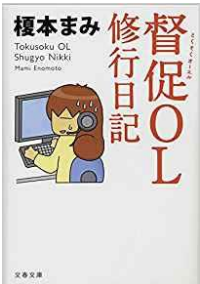


916 イ

アフロ記者イナガキさん、究極の「生きる」とは?! 早期退職の前から、徐々に始まった脱原発生活。電気代を削り、家電を削り…あれもこれもと削っていくと、最後に残ったのは小さくて寂しいけれど、豊かな生活でした。(su-san)

『督促 OL 修行日記』

榎本 まみ/著 文藝春秋 2015



916 工

督促担当のコールセンターというストレスフルな仕事にもかかわらず、ひたむきに奮闘する著者の姿が印象的。この職業の現実が痛いほど伝わってくるし、対応の仕方や心構えなど仕事をしていくうえで参考にもなる。(ことら)

『脳は回復する』

鈴木 大介/著 新潮社 2018

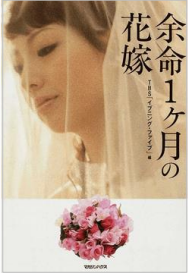


916 ス (新書)

健常者こそ必読!! 41歳で脳梗塞を発症した著者が、「高次脳機能障害」から夫婦で泣き笑いしつつ回復していく過程を、当事者目線でユーモラスに綴っている。理解されない不自由感や苦しみに、寄り添う人の大切さを痛感。(Rin)

『余命 1ヶ月の花嫁』

TBS「イブニング・ファイブ」マガジンハウス 2008



916頁

神様、この時間が続くな
ら、このまま。気が付くと、
がんは全身に広がっていた。
末期だった。残された
余命は1ヶ月。千恵さん
は、支えてくれる友人や
家族とともに、毎日を生
きる。懸命に、健気に、
生きた女性の物語。
(砂糖さん)



ここからは外国の
作家による作品から
選んだおすすめ本です

『高慢と偏見』

ジェイン・オースティン/著 小尾 芙佐/訳
光文社 2011

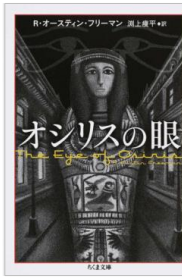


933.6 オ (文庫)

ブリジット・ジョーンズの日
記で取り上げられた古典
の名作。女性の地位が低
くいかに良いお相手を見つ
け結婚できるかが女性の
幸せを左右した時代。聡
明な娘エリザベスは、金持
ちだが第一印象最悪のダ
ーシーと出会うが…
(ゆこりん)

『オシリスの眼』

R.オースティン・フリーマン/著 瀧上瘦平/訳
筑摩書房 2016

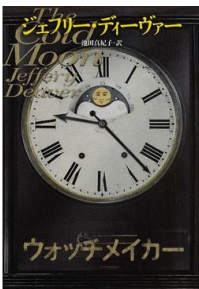


933.7フ (文庫)

古き良き正統派英国探
偵小説。ホームズと並び
称される名探偵・ソーン
ダイク博士がエジプト学者の
失踪事件の謎を解く。パ
ラバラの白骨死体、遺産
争い、エジプトミイラ…古
くても色あせていない英国
正統派ミステリー。
(モフモフ)

『ウォッチメーカー』

ジェフリー・ディーヴァー/著 池田真紀子/訳
文藝春秋 2007



933デ

天才 VS 天才。
同じような殺人事件が 2
件起こった。犯人は殺人
現場にアンティークの時
計を残す「ウォッチメイ
カー」。予告された複数の
殺人を、四肢麻痺の名
探偵、リンカーン・ライムと
そのチームは阻止できる
のか？ (su-san)

『イートン校の2羽のフクロウ』

ジョナサン・フランクリン/著 清水玲奈/訳
エクスナレッジ 2017



936フ

英国の名門「イートン
校」に通う2羽のフクロ
ウ。2羽のフクロウの面
倒を見ることになった少
年。兄弟フクロウを野生
に返すまでの、楽しさと苦
労を描いた体験記。イ
ギリス国民に長年愛されて
きたノンフィクション。
(わいわい)

『25 年目の「ただいま」』

サルー・ブライアリー/著 船山 むつみ/訳
静山社 2015



936 頁

5 歳のとき迷子になったインドの少年サルーが、25 年の時を経て故郷を探し出し家族と再会するまでを描いた実話。危険に晒されながらも生き延び、遠く離れた外国で成長したサルーの「ただいま」までの人生とは… (S)

『窓から逃げた 100 歳老人』

ヨナス・ヨナソン/著 柳瀬 尚紀/訳
西村書店 2014



949.8 頁

100 歳の誕生日に老人ホームを逃げ出したアラン。街中が大騒ぎする中、持ち去ったスーツケースが原因で悪党に追われることに！逃避行と世界史が織り交ぜられた、予想外のハチャメチャコメディ。(S)

『夜間飛行』

サン＝テグジュペリ/著 二木 麻里/訳
光文社 2010



953.7 頁 (文庫)

広大な夜とパイロットの孤独を詩的に美しく描く。生死の危険を伴う真つ暗闇の中、任務を遂行しようとする空の開拓者たちの冒険と悲劇の物語。「ちいさな王子さま」で知られる、サン＝テグジュペリのもう一つの名作。(わいわい)

『マジカル・モーメント賢者のつばやき』

パウロ・コエーリョ/著 山川 紘矢、山川亜希子/訳
ダイヤモンド社 2014



969.7 頁

パウロ・コエーリョのツイッタ一集の翻訳本。ほんわかする優しい絵と共に、そつと背中を押してくれるような短い文章が添えられています。本が苦手な人にも簡単に読むことができる上、何度でも読みたくなる一冊です。(ノラネコ)

『弟は僕のヒーロー』

ジャコモ・マツツアリオール/著 関口 英子/訳
小学館 2017



976 頁

ある日我が家に“特別”な弟がやってきた！弟のやることはいつもメチャクチャで周りは驚かされてばかり。だけど彼にはみんなを笑顔にする特別な力がある。ダウン症の弟との生活を兄が語る感動のノンフィクション。(I.K)

『園芸家の一年』

カレル・チャペック/著 飯島 周/編訳
恒文社 1997



989.5 頁

「趣味を楽しむ」とは…？土づくりに汗水垂らし、芽吹いた苗に心を躍らせる。恵みの雨はまだかと待ちわびて、花の植え替えに四苦八苦する…。園芸に心を驚掴みにされた男の悲喜こもごもを綴った名作エッセイ。(T.T)

ヨコワン 2018
図書館員が選んだおすすめ本 100 冊

2018 年 10 月 20 日

横手市立図書館

【問合せ】

図書館課(雄物川図書館) 電話 0182-22-2300

〒013-0205 横手市雄物川町今宿字鳴田 133